日本学術会議化学委員会分析化学分科会（第 24 期・第 11 回）議事録

日時：令和 2 年 8 月 26 日（水）10:00-12:30
場所：Teams による web 会議開催
出席者（敬称略）：一村信吾、谷口　功、竹内孝江、佐藤　縁、尾嶋正治、加藤昌子、斎藤公児、玉田　薫
欠席者：栄長泰明
記録：佐藤　縁

配布資料：
資料 11-1　日本学術会議化学委員会分析化学分科会第 24 期第 10 回議事録案（外部公開用）
参考資料 11-1 日本学術会議化学委員会分析化学分科会第 24 期第 10 回議事録案（内部用）
資料 11-2-1　シンポジウム案（pdf）
資料 11-2-2　シンポジウムポスター案(pdf)
資料 11-2-3　学術フォーラム役割分担（excel）
資料 11-2-4　別紙１日本学術会議主催学術フォーラムの選定および実施
資料 11-3-1　様式３分科会活動報告
資料 11-3-2　様式１申し送り（分野別委員会化学）

議事内容
(1) 前回議事録確認等
本日の議事次第と進め方について一村委員長が確認を行った。先に「前回議事録確認」と「第 24 期の活動を振り返っての意見交換」を進めることとした。前回議事録（資料 11-1、参考資料 11-1）の確認と、経緯の説明、確認が行われた。

(2) 第 24 期の活動を振り返っての意見交換
分析化学分科会より化学委員会に提出した資料（資料 11-3-1）と、化学委員会内の資料（11-3-2）が第 24 期のまとめとなる。
当分科会は活動をコンスタントに一生懸命に行ってきている；今回もコロナ関連の話題性の高い内容でシンポジウムを行うなど、実に良い取り組みであると考える；この活動内容を、幅広く伝えていくべき；分科会活動は、特定の学会に縛られずに、それらの関係を離れて意見表明できる貴重な存在；関連学協会との連携の重要性；大型計画提案を出した成果；当分科会はダイバーシティの力も大きい；産学連携も進めている；分析化学分科会の国際化をはかりたいなどの意見があった。
分析化学分科会は非常に活発な分科会である。日本学術会議内で活動資金が十分でない中で、学術会議としてリーダーシップをとり有効な活動を行う、産学連携的な立場で、

意見を産業会にフードバックするなどの役割もあり、活動資金を得る方法も大切であろう、などの意見が出された。

(3) 11 月の学術フォーラムについて

齋藤委員より、資料 11-2-1、11-2-2、11-2-3 に従って説明があった。

今回コロナ禍で、学術会議の講堂の長時間利用は難しく、オンラインを中心として開催することとした。日本分析化学会、日本分析機器工業会、日本学術振興会第 193 委員会等と共催とし、学術会議事務局にもオンライン開催時の進め方などを確認しながら進めることとした。

以上